



▲このキャッチフレーズは、本市の教育を伝える
目的で作成したものです。

本市では、子どもが学ぶ喜びを感じ、
学力を高める授業を推進するとともに、
各学校の取り組みがつながり、市全体
に拡がっていくことで、魅力ある授業
が展開されることを目指しています。

つなぐ 広がる 魅力ある

全国学力・学習状況調査の結果と課題
小学6年生、中学3年生ともに、全
国平均を下回る結果となりました。
国語は、昨年度課題であった「基礎・
基本的な内容を問う問題」については、
小中学校共に改善が見られました。
一方で、算数・数学では、「基礎・基
本的な内容を問う問題」や「資料やグ
ラフを正しく読み取る問題」に課題が
見られました。

「魅力ある授業」で 子どもと教師が共に笑顔に

学力・学習状況のお知らせ

問合先〓本庁学校教育課指導G（内線5313）

「主体的な学びを通した「子どもの笑顔」を目指して」

子どもたちが社会の変化に柔軟に対
応し、生涯にわたって学び続けるため
には、自ら課題を発見し、解決してい
くことが大切です。タブレットなどを
活用して自分のペースで調べたり、他
者と交流しながら考えを深めたりす
るなど、自ら主体的に学ぶ力を身に付
ける必要があります。そのために教師は、
子ども一人一人の能力や適性などに応
じた適切な指導・助言を行うなど、子
どもの主体的な学びをサポートします。
本市では、学校における子どもたち
の生活や学習を支援するための基本的
な方針や方法がまとめられた「生徒指
導提要」（文部科学省）を踏まえて、

- ①自己存在感の感受
- ②共感的な人間関係の育成

③自己決定の場の提供
④安全・安心な風土の醸成

の4つの視点を大切にしたい「魅力ある
授業」を目指しています。
具体的には、学習課題に対して見通
しを持ち、学びを進める授業や、ペア
や少人数グループで友だちとの対話を
通して学びを深める授業、自らの学び
を振り返り、学びの実感を味わう授業
を実践しています。
一人一人が、主体的な学びを通して
「分かった」、「できた」を実感し、「子
どもと教師が共に笑顔に」となるよう
な**魅力ある授業**のさらなる推進を図り
ます。
今回は、2つの学力調査の結果を受
けて、各学校の学力向上に向けた**魅力
ある授業**の取り組みの一部を紹介しま
す。



▲自分の答えを導き出すために、タブレッ
トを使用して学習を行っています。



▲どのようにすれば良いか、友
だちと一緒に考えます。



▲興味・関心や習熟度に応じた課題を
自ら選択して取り組んでいます。



▲課題解決の方法を自ら選択して、取り
組んでいます。

自分も大切に
されていると感じる

互いに認め合い、
励まし合う関係



▲質問し合うことでお互いの考えが深ま
ります。



▲友だちが分かるように説明を
することで自分の理解が深ま
ります。



▲机の配置を工夫するだけでも
学習の雰囲気が変わります。



▲他学年との交流は子どもたちの居場所
づくり、絆づくりにつながります。

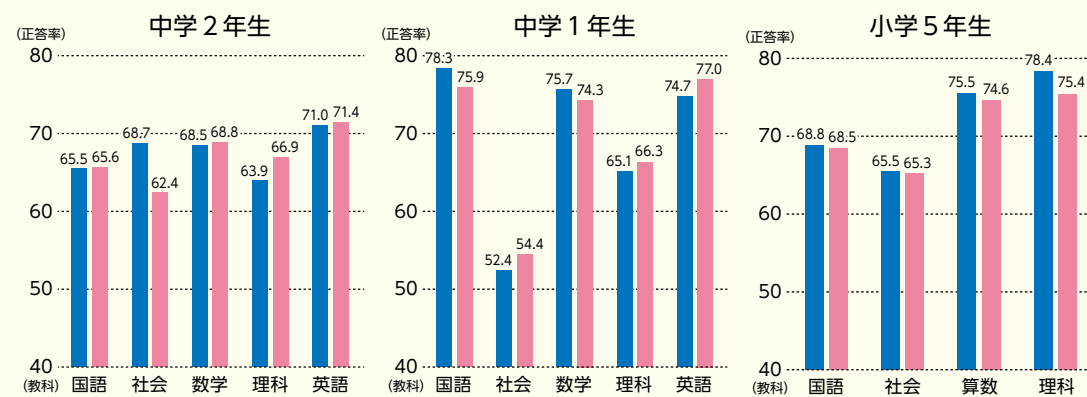
自己存在感の感受
自己決定の場の提供
共感的な人間関係の育成
安全・安心な風土の醸成

**子ども主体の
「魅力ある授業」**

学級・学校が
「（心の）居場所」となる

自ら考え、選択し、
決定する

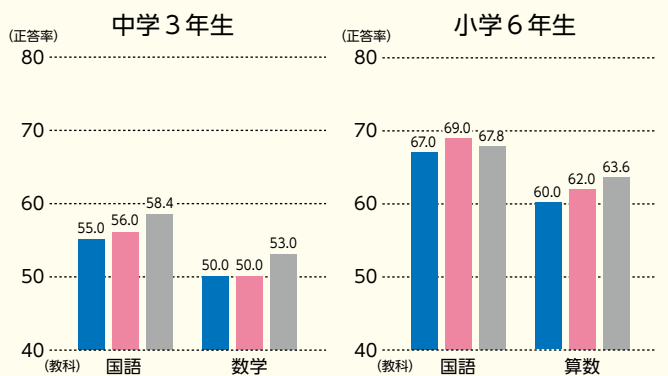
【令和5年度鹿児島学習定着度調査の平均正答率(%)】 ■市 ■県



調査時期〓令和6年1月
対象〓小学5年生、中学1、2年生
(義務教育学校7、8年生含む)

鹿児島学習定着度調査

【令和6年度全国学力・学習状況調査の平均正答率(%)】 ■市 ■県 ■全国



調査時期〓令和6年4月
対象〓小学6年生、中学3年生
(義務教育学校9年生含む)

全国学力・学習状況調査

鹿児島学習定着度調査の結果と課題
小学校は、全教科で県平均を上回り
ました。また、中学1年国語、数学、中
学2年社会は、県平均を上回ったものの、
他の教科は下回る結果となりました。
小学校では、計算や漢字などの基礎
的な知識、技能は定着している傾向に
あります。一方で、中学校では、地名
などの基礎的な用語の定着に課題が見
られました。